

瑞穂市給食センター

給食センターと関係機関が連携した地産地消の取組

【取組の背景】

○平成22年、学校給食での地場産物の食材の利用を推進するため、瑞穂市給食センター、瑞穂市役所、JAぎふ、生産者等による取組を開始。現在まで継続して取組を実施。

【取組の概要】

○学校給食の年間計画に、毎月「地産地消献立の日」を設定し、食に関する指導を実施。

○地場産物の安定調達のため、給食用野菜の規格を統一するとともに、品目別の年間使用量に応じた計画栽培を実施。

また、年に3回、JAぎふが同市の地産地消会議メンバーと生産者との交流会を開催し、相互理解と高いモチベーションを維持。

○JAぎふと生産者が連携し、かぼちゃ、里芋、柿等の食材を使ったオリジナル加工品（里芋コロッケ、柿ジャム等）を給食の献立に導入。

○子供の食生活における実践力を育成するため、瑞穂市が実施する親子による給食料理コンテストの入賞料理を実際の献立に導入。

○地域との連携を強化するため、「弁当の日応援団IN瑞穂」主催の食育フォーラムにおいて、学校給食における地産地消の取組を紹介し、その意義について理解を共有。

【取組の効果】

○地域の食材の特徴を知り、給食で体験・親しみながら、食への興味・関心が向上。

○多様な関係者が連携し、子供達に食育授業の中で地産地消の意義や地域の農業を学ばせ、地域への愛着を醸成。



【名称】 瑞穂市給食センター
【所在地】 岐阜県瑞穂市十八条
【提供数】 (平成30年4月現在)
6,950食
小学校 7校、中学校 3校
保育所 9所、幼稚園 1園

地場食材の利用を推進する取組



生徒が考案したレシピ



地産地消調整会議の様子

平成29年度学校給食用野菜栽培体系

品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
じゃがいも												
にんじん												
だいこん												

地産地消調整会議で使用される学校給食用野菜栽培体系



給食を通じた生産者との交流

○小、中学校別、献立や料理を考える機会を設定し、レシピは「地産地消献立の日」に生徒考案レシピとして学校給食で提供。

○地産地消調整会議では、学校給食献立計画を基に4か月ごとに作成された献立から、使用する野菜量の見積り、必要量の栽培計画を策定し、生産者へ提案。

○生産者に対しては、普及所による栽培講習会の実施とともに、JAは計画に適した品種を選定し、種子、苗、防虫ネットなど資材を斡旋。事前に野菜の品目ごとに学校給食用のサイズや品質の確認を目的とする「目揃え会」を実施。これにより、生産者が安心して学校給食用野菜を生産・出荷できる体制を構築。

○生産者との意見交流会では、調理現場、生産現場の現状を伝えることで双方の理解を深める。また、児童からの感謝、生産者の思いを伝える場として開催。